

令和3年2月 2日

南の風 385

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

2Qに入るとゲームの流れが変わります。

明成は2-3から1-1-3のチェンジングゾーンを敷きます。東山はゾーンに対して、リングに向かって右サイドをエイペック（右コーナーに1人、ショートコーナーに1人、ウイングに1人と三角形を作り、パスの出し入れで攻める）の陣形で攻撃します。ゾーン形態によって、若干配置は変化します。

東山は3P やトランジションからのシュートが落ちるのを、ジャンピエール選手がリバウンドを決めて着実に得点します。

明成は、東山のマンツーマンをドリブルスクリーンで崩しシュートまで行くのですが、リングに嫌われ得点が伸びません。残り時間2分 20 秒で浅原選手のジャンプシュートが決まるまでわずか2点に留まります。その後再び、ジャンピエール選手のリバウンドからのゴール下が決まったところで、明成がタイムアウトを取ります。タイムアウト後明成は、ディフェンスをプレス気味に上から当たります。積極的なディフェンスから流れを掴み、山崎一渉選手がジャンプシュート沈めます。

東山はトランジションから走り、中川選手がゴール下のポンプフェイクシュートでファウルをもらい1本決まります。前半を終わって、40対26で東山がリードします。（2Qは20対6）

3Qに入ります。立ち上がりの明成のディフェンスは、相手のジャンピエール選手を意識して、山崎一渉選手がドロップするゾーンの形（3-2から1-1-3や2-3）でした。前半のデータからの対応だと思えます。

先制したのは明成でした。山内ジャヘル選手が右ハイエルボーの山崎一渉選手に自分のディフェンスをこすり落とし（UCLAカット）、バックドアでゴール下に飛び込みアーリーウープで得点します。

東山はエルボーの位置に西部選手をフラッシュさせ、中外で攻め落ちたシュートをジャンピエール選手が押し込みます。

その後も明成はピックからノーマークを作りショットに行きますが、ジャンピエール選手のブロックに阻まれたり、意識したりしてシュートが外れます。東山は、トランジションからジャンピエール選手が走り、米須選手からのループパスを受けシュートします。これがファウルとなります。ここで明成はタイムアウトを取ります。この時のベンチでの佐藤ヘッドの指示が映像で流れましたが、たいへん丁寧でした。聞き取りにくいところもありましたが、一人ひとりにやるべきことを具体的に伝えていたのが印象的でした。「お前はドライブで行け。お前はシュート、お前はスクリーンに行け。弱虫ではだめだ！リバウンドに行け！」と言って送り出しました。ジャンピエール選手のフリースローが2本決まり、差がこのゲーム最大の17点になりました。（45対28）

明成は、山崎一渉選手のミドルシュート、一戸選手のドライブ、さらに一戸選手が走りドリブルシュートで3連続得点です。その後両チームとも、シュートが決まらず膠着状態となるが、明成の山内選手の3P が決まると、2回続けてパスカットからの速攻を山内選手が決めます。東山はやや攻めあぐむが米須選手がミドルシュート、フリースローを決めて得点する。前半終了時（55対42）東山がリード。